

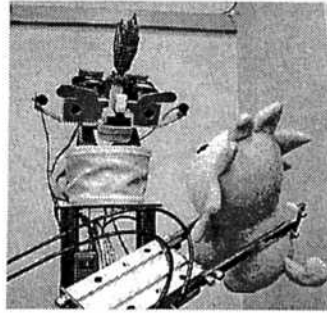
目の前にある物体に興味を示して、色や形を学習する……。こんな好奇心旺盛なロボット「写真II」を電気通信大学の長井隆行助教授らが試作した。人間がロボットに物体の名前を覚えさせることもできる。将来、家庭やオフィスなどでロボットを使うとき、人間が逐一学習させる手間を減らせる。

このロボットは、高さ二十五センチの本体と物体をつかむ腕に分かれる。目に二つのカメラを搭載、耳に二つのマイクがついている。首を二〇

ロボ君「これは何だろう」

見て、つかんで、覚える

電気通信大で試作



度回転することができ。ロボットは首を回転させて、目にあるカメラで色や形が目立つ物体を探し出す。その物体を発見すると、腕でつかんで目の前まで運び、物体の色や形、大きさ、模様などを記憶する。

例えば、ロボットの視界にライオンのぬいぐるみがあると、自分の腕でつかんで目の前に持っていく。そして、ぬいぐるみの情報を記憶する。人間が「ライオンだよ」と教えると、ライオンのぬいぐるみであることを理解する。一度学習して覚えているので、「ライオン」として命令すると、ライオンのぬいぐるみを取ってくる。

今後、腕の部分に圧力センサーを組み込んで、物体をつかんだときの感触も学習できるようにする。